

# 令和5年度 府中市立府中第十中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

## 第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の漢字の読み書きが十分にできない生徒が多い。</li> <li>・長文の文章を読むことに慣れていない生徒がいる。が</li> <li>いる。</li> <li>・自分の考えをうまく表現できない生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の初めに、小学校の漢字テストを行う。</li> <li>・図書室を利用しながら、朝読書の活動を行う。</li> <li>・授業で、書かせる活動を工夫して行う。</li> </ul>		
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・技能の評価にCがつく生徒の割合が多い</li> <li>・問題を解くスピードが遅い生徒が多い</li> <li>・試行錯誤したり改善したりする力が弱い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本の徹底のための時間を多めにとる。</li> <li>・問題に取り組ませるときに、時間を意識させる。</li> <li>・レポートで試行錯誤する力を育成し、答え合わせ等で、改善する力を育成できるよう解説する。</li> </ul>		
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や実験に意欲的に取り組むことができる。しかし、基本的な知識の定着には個人差が目立つ。</li> <li>・知識を活用できる生徒は少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚教材を用いて身近な事象と関連づけて学習を進め、基礎学力の定着を図る。</li> <li>・実験などのグループ学習をおこない、学び合いながら知識を活用できる環境を設定する。</li> </ul>		
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学習指導要領に明記されている基本的な事項が抜けている生徒が多くいる。</li> <li>・漠然とした認識で答えを出す傾向がある。</li> <li>・学習内容を具体的に考えられない生徒もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ごとの復習を行ったり、小テストを行ったりして基礎基本の知識を確実なものにするようにしている。</li> <li>・資料を用いて、資料をもとに考察できるように、見方考え方の向上を図っている。</li> <li>・ICTを用いて視覚から情報を得たり、ペアワークで情報の共有を行ったりしている。</li> </ul>		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の基礎的な内容を小学校で習得している生徒としていない生徒の差が大きい。また、小学校での苦手意識が強い生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽用語や音符・休符など基礎的な内容をカードやICTを活用し、繰り返し学習することにより定着をはかる。また、楽しみながら学習をすることにより興味関心を高め、苦手意識を克服できるようにする。</li> </ul>		
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業進度の差をどのように短縮していくか。</li> <li>・道具や材料の効果的な使用方法に力を注いで、完成作品のクオリティを向上させる。</li> <li>・制作における自己評価に力を注いで、自己の現状や課題に気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTやタブレットを使用して、参考作品に接する機会を増やす。</li> <li>・計画的な机間指導によって道具や材料の使用方法をチェックし効果的なアドバイスをする。</li> <li>・評価カードを活用して、作業へのお遅れや現状を本人教員が早く知り、効果的なアドバイスをする。</li> </ul>		
技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業がうまくいかず、材料加工の実習に興味をもてない生徒が一定数いる。</li> <li>・作業進度の違いから協働的な学びの場面が設定しにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模範作業動画を生徒がタブレットで自由に視聴できるように用意し、作業内容が分からなくなっても自ら振り返ることで「自分でできる」体験を経験させる。</li> <li>・作業の振り返りの時間を定期的に設定し、課題解決に向けてグループで対話的な活動を行う。</li> </ul>		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定した時間の中で作業が終わらない場面が少しみられた。</li> <li>・裁縫などの基礎技能の習得につまずき、苦手意識をもつ生徒がいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業の流れを確認し、目先の事だけではなく計画の手順を意識させる。</li> <li>・くり返し取り組むことで、基礎技能の定着をはかる。</li> <li>・生徒が教えあいながら授業に取り組むよう、小グループの作業を取り入れる。</li> </ul>		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技の時間が多くなるので、ホワイトボードやプリントを十分に活用することが難しい傾向にある。</li> <li>・活動の場によってはICTの使用が難しい場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとにプリントを作成し、知識や技能のポイントを理解しやすいようにしていく。</li> <li>・単元によってICT教材を活用し、見本動画を見せたり生徒が自分自身の動きを確認できるようにしていく。</li> <li>・特に苦手な生徒に具体的な声掛けができるよう意識していく。</li> </ul>		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>①主体的に学ぶ態度の育成と学習意欲の継続（「英語嫌い」を増やさない）。</li> <li>②「読む」「書く」能力の育成。</li> <li>③個に応じた指導と協働的な学びの一体的な充実。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①単元の明確なゴールを生徒と共有・振り返りの場面設定・「学び方」の指導。必然性があり、生徒の興味関心に沿った課題の提示。</li> <li>②「読んだ内容に基づいて書く」技能統合型の言語活動を充実。</li> <li>③少人数授業を通じた、発達や個人差に配慮した声かけや指導の工夫。発表や意見交換・学び合い場面の充実。</li> </ul>		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

# 令和5年度 府中市立府中第十中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

## 第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間の授業の目標と個人の個人で達成できたことを生徒自身が自覚できるようにさせたい。</li> <li>・自分で文章を書く際、適切に正しく漢字を使えない生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板に目標を提示し、授業の終わりにその日達成できたことを確認する時間を設ける。</li> <li>・毎時間、漢字の小テストを行い、間違った漢字は丸つけの時に訂正し、覚えるようにさせる。</li> </ul>		
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手意識のある生徒が多いため、教具・教材の工夫をし、意欲的に取り組めるようにする。</li> <li>・計算ができるだけでなく、試行錯誤したり改善したりする力をさらに伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その日の学習のポイントを明確に示し、これだけで大丈夫だという安心感をもてるようにする。</li> <li>・章ごとにレポート課題を出し、試行錯誤する経験をさせる。</li> <li>・問題集の答え合わせやテストのふり返しを行う中で自分で改善点を見つけさせる。</li> </ul>		
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では理解しているが、知識の定着度が低い。以前に習ったことの復習をすると覚えていない者が見られる。</li> <li>・理科に興味をもっているものが多く、知的好奇心を伸ばしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元で関連する過去に習ったものを、復習したり、再確認しながら、授業を進めていく。</li> <li>・視聴覚教材を用いたり、身の回りの事象に関連付けて、法則や現象を紹介していく。</li> </ul>		
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考の過程や結果についてワークシートに記入させているが、文章表現力における個人差が大きい。</li> <li>・意見交換の場を設定しても、こちらの期待ほど活発な意見交換ができないことが多い。</li> <li>・知的な好奇心が旺盛な生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現力に主眼を置いた課題を意図的に設定、育成を図る。</li> <li>・意見交換しやすい課題の工夫、意見交換の場を増やす工夫を行う。</li> <li>・生徒の疑問に丁寧に回答し、探求心の一層の向上を図っていく。</li> </ul>		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽譜を読むことを苦手としている生徒が多い。</li> <li>・音楽を聴いて感じ取ったことや考えたことを文章で表現することが難しいと感じている生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用し、楽譜の読み方や楽譜から読み取れることを一緒に確認していく。</li> <li>・タブレットを活用し、自分の思いや意図を表現するためにあらかじめキーワードを設定し、それに沿って表や文章を組み立てていくようにする。</li> </ul>		
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業進度の差をどのように短縮していくか。</li> <li>・道具や材料の効果的な使用方法の取得に力を注いで、完成作品のクオリティを向上させる。</li> <li>・制作における自己評価に力を注いで、自己の現状や課題に気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを効果的に使用して、参考作品に接する機会を増やす。</li> <li>・計画的な机間指導によって道具や材料の使用法をチェックし効果的なアドバイスをする。</li> <li>・評価カードを活用して、作業へのお遅れや現状を本人教員が早く知り、効果的なアドバイスをする。</li> </ul>		
技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー変換の学習において、作業への興味関心は高いが、電気に関する基礎的な知識の習得に課題がある。</li> <li>・個別の学習時間が多く、協動的な学びの場面が設定できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教材を活用し、繰り返し学習課題に取り組めるように指導実践していく。また、身につけた電気の基礎知識が実生活に生かされている場面を考えさせる。</li> <li>・上記の場面において考えられる課題について、グループで解決策を考え発表する授業を実践する。</li> </ul>		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定した時間の中で作業が終わらない場面が少しみられた。</li> <li>・裁縫などの基礎技能の習得につまずき、苦手意識をもつ生徒がいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業の流れを確認し、目先の事だけではなく計画の手順を意識させる。</li> <li>・くり返し取り組むことで、基礎技能の定着をはかる。</li> <li>・生徒が教えあいながら授業に取り組むよう、小グループの作業を取り入れる。</li> </ul>		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共修になったことで、技能の差が顕著になっている。</li> <li>・思考の過程や結果について学習カードに記入させているが、文章力や集中力により差が出てしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女別のグループを作り、活動させる。</li> <li>・単元の終わりに教室での授業を1時間行い、授業内レポートをタブレットで入力させる。</li> </ul>		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい綴りで英語を書くこと。</li> <li>・既習の文法事項の理解。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニットごとの小テストの実施を継続する。また、教科書本文を通じて語彙の獲得や文構造の意識化を図る。</li> <li>・モデル発音をシャドーイングする作業を増やす。生徒の発話量を増やす。</li> </ul>		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

# 令和5年度 府中市立府中第十中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

## 第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字を苦手としている生徒がいる。</li> <li>自分の考えをうまく表現できない生徒が多い。</li> <li>長文の文章を読むことが苦手な生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の初めに漢字をテストを行う。</li> <li>授業で、自分の考えを表現する活動をしていく。</li> <li>いろいろな長文の文章を読む機会をつくる。</li> </ul>		
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>苦手意識をもつ生徒や、問題を解くスピードが遅い生徒が多い。</li> <li>試行錯誤したり改善したりする力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>苦手意識をもつ生徒に対しては、以前学習した内容に立ち戻ったり、シンプルな言葉で発問を行う。また、問題演習では時間を意識させる。</li> <li>レポートでは試行錯誤する力を育成する。また、答え合わせ等で改善できるよう開設する。</li> </ul>		
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識を用いて論理的に考えることを苦手とする生徒が多い。また、図表やグラフから目的とする内容を読み取り、考察することに課題をもつ生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視覚教材を用いて身近な事象と関連づけて学習を進め、意欲的に授業に参加できるようにする。</li> <li>論理的に表現する型を提示し、その型にそって考察できるように支援する。</li> <li>学び合いができる環境をつくり、考えを表現し合う中で、課題解決できる力を養う</li> </ul>		
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えや意見をもっているが、それを表現することを苦手とする生徒が多い。</li> <li>1～2年次の既習事項が抜けてしまっている生徒が多い。</li> <li>入試に向けて、社会は暗記科目として、ひたすら覚えることだけに徹する生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループでの意見交換や発表、まとめや考察の記述の機会をさらに増やす。</li> <li>授業内で関連した発問を意図的に入れ、既習事項の振り返りを増やす。</li> <li>最低限の暗記は当然必要だが、理解につながるようなワークシートの作成を工夫する。</li> </ul>		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を聴いて感じ取ったことや考えたことを文章で表現することが難しいと感じている生徒が多い。</li> <li>短時間で合唱曲を仕上げるために、パート練習の効率化をはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットを活用し、自分の思いや意図を表現するために表や文章を組み立てながら、感じ取ったことや鑑賞を通して考えたことを文章で表現できるようにする。</li> <li>パート練習を通して学び合い、教え合うことにより短時間でも効率的な練習ができるような授業展開をする。</li> </ul>		
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業進度の差をどのように短縮していくか。</li> <li>道具や材料を効果的に使用して完成作品のクオリティを向上させる。</li> <li>制作における自己評価に力を注いで、自己の現状や課題に気付かせ、次の授業のモチベーションにつなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参考作品を多く掲示し、机間指導で効果的なアドバイスに心掛ける。</li> <li>計画的な机間指導によって道具や材料の使用方法をチェックし修正やアドバイスに力を注ぐ。</li> <li>評価カードを活用して、作業へのお遅れや現状を本人教員が早く知り、次回の授業へのモチベーションにつなげる。</li> </ul>		
技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラミング学習において、プログラムを作成することだけにとどまり、課題解決に向けた深い学びにつながらない生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用しながら生徒が自ら設定した課題をプログラミングで解決していく授業を設計し、実践する。一人で取り組むか、グループで取り組むかも含めて主体的に考え、深い学びを実現する。</li> </ul>		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>実生活にいかせる様に個別課題を設定し、生活実践しやすい工夫をする必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が授業内容と、自分の生活との関わりを考えられるように、生徒の身近で分かりやすい題材を設定する。</li> <li>生徒が自分の生活と社会的な関わりに興味をもち、理解しやすいように工夫する。</li> </ul>		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>男女共修になったことで、苦手意識のある生徒がこれまで以上に活発に取り組めなくなっている。</li> <li>思考の過程や結果について学習カードに記入させているが、文章力や集中力により差が出てしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>男女別のグループを作り、活動させる。</li> <li>単元の終わりに教室での授業を1時間行い、授業内レポートをタブレットで入力させる。</li> </ul>		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>①主体的に学び、意欲的にコミュニケーションをとろうとする力を身に付けさせる。</li> <li>②基礎的な知識を定着させ、自信をもって学習できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間コミュニケーション活動や、それに必要な表現の反復練習を行う。</li> <li>定着度を、ユニットごとのパフォーマンステスト及び小テストではかり、意欲を喚起する。</li> </ul>		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。